

でんでんくん



でんでんくん



きぬたくん



つちこちゃん



あぶみ先生

発行：きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）

進路学習特集

聴覚支援学校での進路に関する様々な学習や、中学校の難聴学級の実践についてご紹介します。

先輩と語る会



12月15日（金）本校高等部産業技術科を卒業した先輩を講師にお招きし、「働くために大切なこと～就職に向けての心構え～」についてお話をうかがいました。「先輩と語る会」は毎年同時期に実施しており、今年も聴覚支援学校以外の中学校・高校から2名の参加がありました。

講師は現在にかほ市にある製造工場に勤務しています。中学部での職場体験や、高等部で複数の企業で実習を経験したことが進路決定につながったとのことでした。実習先を決める際にも「身体を動かす仕事」「聾の先輩がいる職場」と、自分の希望を伝えた上で進路担当の先生と相談していたそうです。

職場でのコミュニケーションは筆談やスマホのメモアプリの他、UDトークが非常に便利で、朝のミーティング時に役立っているとのこと。また、毎日手話で挨拶したら同僚の方々も次第に手話や指文字を使ってくれるようになってうれしかったと笑顔でお話していました。旅行やバスケット観戦とプライベートを充実させながらも、勉強してビジネス試験に合格するなど将来の目標に向けて真面目に努力し続ける姿を、後輩たちに示してくれました。



後輩のみなさんに伝えたいこと

〈在学中にやるべきこと〉

・体力づくり ・素早さと正確さを意識して生活する

〈身に付けた方が良いこと〉

・相手に聞こえるように挨拶をする

・分からないことがあったら「聞く」習慣を付ける

高大連携プロジェクト～筑波技術大学～

このプロジェクトは、筑波技術大学が培ってきた専門的教育環境・教育資産を活かして、大学と特別支援学校が連携して教育プログラムを実践するもので、本校でも、同大から講師を招いて授業を行っています。

今年度は12月5日と12日の両日、産業技術学部から講師を招いて、学部概要や入試科目についての講話に加え、『Photoshopによる画像加工技術演習』の授業を行いました。

講話には、中・高等部生の希望者が参加しましたが、初めて参加した生徒にとっては、筑波技術大学を知り、興味をもつ機会に、受験を控えた生徒にとっては、試験の出題傾向や採点方法など試験対策のための情報を得られる機会などになりました。

高等部の情報デザイン科の生徒を対象に行った授業は、大学で実際に行っている講義と同じ内容ながら「老人の顔をより自然に若返るように補正する」という生徒が興味をもてる題材が準備されており、専門的な技術を楽しみながら学ぶことができたと話す生徒が多数でした。

来年度も、本プロジェクトを活用し、専門的な学びに触れる機会にしたいと考えています。



中学校の難聴学級での実践～先輩にインタビュー～

湯沢市立山田中学校で、中学生の進路選択と障害認識に関わる自立活動の授業を拝見する機会がありましたので紹介します。小学校在学時に先輩からの手紙を参考に生活を支えるための「お助けブック」を作成して不安を解決していった学習経験を生かし、中学校卒業後の進路に向けて新たな「お助けブック」を作成して、中2の生徒Aさんが抱える不安感を克服するための意欲の向上を図るという取組の一つだそうです。

授業では、Aさんのロールモデルとして、好きなスポーツが同じで現在まで続けている難聴のある社会人の先輩をゲストティーチャーとして招き、関心のあることや不安に思っていることなどをインタビューするという活動をしました。この活動を本生徒は大変楽しみにしていたということで、当日はたくさんの質問をしながら、聞いた内容を自主的にメモを取るなど本当に自分事として課題を意識して学習していました。Aさんの感想で「印象に残ったのは好きなことを続けるということ。僕もコミュニケーションの目標を作って頑張りたい」という思いが伝えられていました。

聴覚障害のある子どもたちにとって、大人や先輩などロールモデルの存在や関わりは、進路や障害認識を肯定的に捉えていく上でとても大切なものになります。小学校や中学校においてもこのような取組が自立活動として位置づけられることが望まれます。さらに、授業の中では生徒の意欲や目的意識を高めるための次のようなたくさんの工夫がされていました。

- ・やり取りの部分を文字で情報保障をして確認できるようにしたこと
- ・ICTを活用して一連の活動の流れを示し、自己評価の方法を工夫していること
- ・ユニバーサルデザインの視点として、活動を区切ってやっていたこと、活動のポイントを示していつでも振り返られるようにしていたこと
- ・やり取りにおいて助詞などの指導を適切に行っていたこと
- ・教師の明瞭な発話、発問 等



冬場の補聴器・人工内耳管理



○冬場は暖かい室内と寒い屋外の温度差によって結露が起こります。結露でチューブやイヤモールドに水がたまり、きこえにくくなったり故障の原因になったりする場合があります。また、雪で補聴器や人工内耳が濡れてしまう場合もあります。結露や雪で濡れてしまったときは、しっかりと水分を拭き取り、乾燥させましょう。チューブの中などは、ティッシュでこよりを作って水を吸い取るとよいです。乾燥のためにも、外した補聴器や人工内耳を失くさないためにも、外出する際は乾燥剤の入ったケースを持ち歩くことをお勧めします。



○補聴器に使用する空気電池は、乾燥や二酸化炭素に弱く、冬は夏と比べて持ちが短くなります。

長持ちさせるには、換気を定期的に行ったり、補聴器から電池を外したときは、空気孔にシールを貼って保管したりしましょう。

○補聴器は水に弱いですが、熱にも弱いです。暖房の近くや日差しで高温になる窓辺などに置かないよう気を付けましょう。また、人工内耳は静電気に弱く、データが消えてしまうことがあります。

静電気防止グッズや加湿器を上手に使用して、静電気を防止しましょう。

☆本校ホームページに掲載の自立活動だより(12月25日発行)には、チェック表も載っています。ぜひご活用ください。

手話学習会があります

令和6年1月12日(金)9時～
参加希望の方は、小松(自立活動部)までお知らせください。



きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）【直通携帯電話】090-8784-6302

【聴覚支援学校】〒010-1409 秋田市南ケ丘一丁目1番1号

TEL：018-889-8572 FAX：018-889-8575 E-mail：chokaku-s_shien@akita-pref.ed.jp